



いながき

6月議会活動報告

人事政策

国、県、自衛官も警察も
新採大幅増 民間人起用も



いとう

激変。人事政策は行政運営の要。中原市政の方向を示す重要なポイントです。先に県の元知事室長を参与として迎えたのに続き、今回は厚労省の若手キャリア。元自衛官、元警察官も配置。新規の採用は民間人、スポーツ枠を加え倍増にちかい28人。定年退職者の再雇用は23人。女性職員の割合は4対6の水準に。職員数は現在417人。臨時職員は200人。活気あふれる一方で人件費、時間外手当は急増。その狙いや今後の取り組み、課題を浮き彫りにする第1弾の質問です。

【多彩な人材】

重鎮の元知事室長は市長側近。厚労省10年・働き盛りのキャリアは子育て支援の副部長に。それぞれ国、県とのパイプ役も。自衛官は5年の任期付き採用で防災など危機管理の専門家。警察は刑事畑出身62歳。1年ごと更新で地域福祉課に配置。民間人、スポーツ枠での中堅職員は6人に。いずれも個性と意欲。即戦力として期待できそう。全員に接触のうえ質問に立ちました。

【新採、再任用大幅増の背景】

新採用は27年20人。28年度は28人。少し前に比べ倍増へ。退職者補充、産休代替、業務量増が理由とのこと。再任用は部長級の退職者など23人に。年金支給は来年度から63歳に繰り延べ。60歳定年後希望者は全員再雇用。3段階下での処遇が原則とのこと。増えるOB職員をどう活用するのか。加えて常時200人体制の臨時職員。半年期限での雇用、更新。低い時給。職場・組織の見直し・働き方改革。ワークライフバランスの目配りもテーマの一つです。

【人件費、時間外手当の限度は一】

新たな職員の起用や配置は職場の空気を変える一方で長期にわたって人件費増の要因にもなります。吉川市の特別職を除く人件費は29年度33億9千万円。3年間で3.9%の伸び。時間外手当もこのところ大幅増。職員一人の生涯賃金は3億円程。人口が増加中の吉川市ですが、スクラップアンドビルドで全体を見渡し、将来を展望した上での納得のいく取り組みが求められています。

【柔軟な組織運営で適切な管理を！】

新採用のうち、7人は産休の代替・補充としての要員数。との説明もありました。当面採用方針は変更しないとの答弁も。財政面の制約や限度。各施策との関係。柔軟な組織運営と適切な人事管理をどう展開できるのか。例えば再任用職員を中心に特別プロジェクトチームを編成し、機動的に各種の代替業務に携わるなど、時間差出勤を含め働き方改革をすすめてはどうかとの指摘提言もしています。人・もの・金。全般について納得できる展開が必要です。今後も継続して取り上げていきます。

(いとう記)

いながき・いとうの

6月議会報告

どなたでも

場 所 おあしすセミナールーム3
日 時 7月2日(日)
時 間 午前10時～12時

いながき茂行 栄町782番地1C-1101 TEL&FAX 983-1628

Eメール iimachi.yoshikawa@gmail.com

いとう 正勝 きよみ野2-8-2 TEL&FAX 983-1117

Eメール itoh.m-y.runesansu@nifty.com

*これまでの議会活動報告は、いながき茂行公式ホームページでご覧いただけます。ブログは毎週土曜日更新 <http://www.inagaki-s.com>

「新庁舎」建設の進捗 状況と関連業務 いながき茂行

市の重要課題の一つである「新庁舎」建設。昨年10月に着工し、いよいよその「骨格」が見えてきました。

平成30年5月の大型連休後には、移転も完了し「新庁舎」での業務がスタートする予定です。

市民の関心と期待が高まっている中、庁舎建設及び関連業務の進捗状況と今後の計画について、一般質問で取り上げました。

建設は予定通り、 来年3月竣工！

基礎工事が終わり、現在は5月から始めた鉄骨の『建て方』工事中。7月上旬に完了後、外壁工事、内装工事に着手。

付属棟建設や外構工事を含め、平成30年3月末の完成を目指し工事を進めています。

引越しは、GWに、 「開庁」は7日の予定

新庁舎への移転は、来年の連休を目前。今後、引越業務委託を業者

へ発注するが、庁内でも各課に引越リーダーを配置。限られた日程で効率よく速やかに実施できるように準備して行く。

「開庁」は5月7日の予定。

「一体的活用で、 「おあしす」と連携

「よりコンパクトで機能的」な庁舎。コミュニティ交流拠点としての機能を発揮できる「おあしす」。

二つの施設を相互補完的な一体施設として捉え、質の高い市民サービスを提供して行くという基本的な考え方で、「おあしす」の改修が進められます。

庁舎とおあしすルーフデッキを、渡り廊下により2階で接続。おあしす屋上庭園を活用したコミュニティスペースの創出、築山の撤去、駐車場の生垣を低くする等を検討しています。

また、改修点や調整については、検討委員会で関係課、外部有識者を交えて行っています。

市民に開かれた 庁舎として活用

会議室等は、設計の段階から

業務時間外や休日に、市民に貸し出しが出来る様計画。

具体的な利用基準について検討を進めている。セキュリティについては、エレベーターの停止階サービスや執務エリアへの立ち入りが出来ないよう検討している。

レイアウト計画、 什器・備品は

昨年度、庁舎レイアウトの業務委託を行い、窓口の配列、机・カウンターの配置、来庁者に分かりやすいサイン整備計画をまとめた。

今後、什器・備品を手配するが、全ての什器・備品を新調するということではなく、転用可能なものは活用する考え。

バス路線・停留所 の設置は

バス事業者会議で、庁舎移転に伴うバス路線の新設、見直しを依頼。庁舎敷地内へのバス乗り入れは、旋回スペースの確保や安全面から断念。

* 一般質問での主な

質疑より

6月議会では、6月2日～16日まで開催。市長提出14議案を審議し、全議案を可決。内容は条例4件、人事案件2、補正予算2、当初予算I、他5件。

議案審議

【条例】は、敬老祝品贈呈条例の一部改正。吉川美南駅東口周辺地区土地地区画整理事業特別会計設置条例等。

【工事請負契約】の締結は、東中学校校舎大規模改修工事（建築・機械設備工事）。契約額は総額、6億9120千円。

【補正予算】平成29年度一般会計補正予算。3億97574千円を追加し、261億44574千円。

【当初予算】吉川美南駅東口周辺地区土地地区画整理事業特別会計予算。歳入歳出予算総額は、7億63849千円。

●敬老祝品贈呈条例改正は、3月議会でも、『敬老祝金を敬老祝い品（1万円相当）へ変更』したが、高齢者の意見を踏まえ、祝い品と祝い金を選択できるようにした。

委員会審査

総務水道委員会（伊藤）及び文教福祉委員会（稲垣）では29年度補正予算、条例担当分を審査。

一般質問

①スーパーマルサンの「占用許可」変更と環境測定について

②「新庁舎」建設と「おあしす」改修について（稲垣）

①「人事政策」について（伊藤）
②財政運営と展望

新駅東口開発事業 「都市計画」が決定

いとう 正勝

6月23日。東口開発エリアの市街化区域編入の告示。区画整理事業計画についても正式に認可。総事業費179億円。59ha余。10年計画での整備へ。

6月議会ではこの区画整理事業について特別会計の設置条例が提出され可決。同時に歳出、歳入7億6千3百84万9千円の特別会計予算が提出されて可決。歳入は区画整理事業債が主で歳出はUR(都市再生機構)関連企業に対する委託料など。市とURとの共同のモデル事業に向かってスタートです。

区画整理審議会発足

秋口には土盛り工事

学識経験者3人と地権者代表12人による区画整理審議会。地権者300人余で12人を選出。10月ごろに発足予定。5回

開催し、諮問を受けて仮換地計画やその指定を審議すること。

この秋には宅地造成の土盛り工事が始まります。地盤が軟弱なことから一部は4Mほどの積み上げ。1年〜2年かけて圧密沈下をはかる方針。この土盛り用の土はオリンピック工事現場等からのもの。120万³m。大型トラック20万台分で無料での持ち込みになりそう。

今年度は測量や換地設計の業務。30年度以降は工事設計業務や駅前商業ゾーンからの整備を進めるとのこと。

総事業費179億円の内訳は保留地処分金105億。国庫補助金18億。市の単独負担53億。その他3億円等。事業債については10年間で総額71億円を見込み、保留地処分金が見られた時点で随時償還を行う方針。

企業の誘致活動については委託を受けたURの関連企業が今年度中に各企業等と直接意見交換を行うこととしており年内にはPRの冊子の作成も。

中央土地25M道路

新栄の通りまで開通へ

中央土地の区画整理事業について。国や県からの補助金がつき、事業がすすむことに。新栄との交差点に来年年度信号機が設置される見通しで、信号機がつき次第、開通する運びです。

沼辺公園線の栄小北側の歩道は用地使用のメドがつき年度内には未整備の歩道と車道70mが整備される見通しです。

栄小南側の緑道の延長部分については街路樹の早期植栽をとの声も寄せられています。区画整理組合では植栽の樹種について市公園課と協議し検討したいと話しています

木売り落し貯留施設

都市計画決定に

決定は木売り落しの2km。1万6千haとのこと。事業計画は別途申請すること。



なまらん

「なまらん」体操で健やかに。効果は抜群。一日快適。参加しての実感です。

吉川市の呼びかけで今では市内の34ヶ所でこの「なまらん」の集いが定着。さらに広がりを見せています。

自治会や老人会が各地区で協力。専任の指導者や研修を受けたリーダーが軸になり、毎月1〜4回。ストレッチ、筋トレ、脳トレ(主に指体操)。口腔や舌トレ、リズム体操。新たに「鉄棒」で付加を付けたり、「みんなのなまらん」踊りでふれあいの試みも。やさしく、年相応に。

人間の体は超々精密。全身に血管、神経の網。血管の長さは地球の2周半にもなるとか。

適度に手を入れ動かし、気を注がなければ、一気にさびつき使用不能は必定です。

一歩踏み出せば応用力もつき、朝・昼・夜。いつでもどこでも自己流で元気に！

お気軽に、まずは足を運んでみませんか。

梅雨はれま 「なまず」輝き

軽やかに (いとう)

速やかに「許可変更」を！

～マルサン「占用許可」取消し問題～



スーパー「マルサン」が出店して2年8か月になります。

開店前より店舗と倉庫の間にある水路(市道 2-1026 号線)上に架かった橋を使い、商品の搬入・移動を行っています。

当初、無許可での使用だったことから、市は道路法32条「道路占用許可」の申請をさせ、許可を下しました。しかし、道路法施行令第10条の要件に合致しないこと(私が指摘)が判明し、市は占用許可の誤りを認めました。

市は道路法32条に代わり、24条での許可を下すため、「マルサン」側と1年以上話し合いを進めていますが、合意に至っていません。

課題となっている点を確認するとともに、速やかに許可の変更をするよう求め質問をしました。

【道路法24条(請願工事)による許可】

市は、道路法24条で新たに許可を下し、32条での許可を取り消す方針です。24条は、いわゆる「請願工事」。道路管理者以外の者が行う工事です。道路利用者の都合で行う工事を市が認め、工事終了後は道路管理者(市)の責任で道路の維持・管理・補修等を行います。

不都合が生じた場合は、吉川市の責任となります。歩行者が、鉄板の橋やシートで、「滑って転んだ」や近隣住民の、「うるさくて眠れない」等の問題は原則として、市の責任となります。

【合意できない課題は？】

質問に対し、『問題となっているのは「構造部分」で、「構造」について事業者と調整している。』『荷重の問題が一番の問題』だと答弁しました。

一方、事業者は、『市の指導に従い費用を掛けてスロープを整備し許可を受けた。』『あの許可は誤りだった。今度は24条で許可を下すから、橋の構造を変えてほしい』と言われても。

一番の問題は、『また工事するんですか！全額、当社負担で？』だと思います。

市の担当者は、強く言えず、事業者は納得していない。「許可」をひっくり返すのは大変なことです。担当者任せにせず、上位職が直接話し合いをするよう求めました。

【道路法24条(請願工事)と32条による「占用許可」を組み合わせる】

これまで、国土交通省道路局路政課へ行き相談。また近隣市の道路担当者の意見も聞きました。私はリスク管理の面から、道路法24条と32条を組み合わせる許可を提案してきました。トラブルの原因となるものは出来る限り市の管理から外し、実際に使う事業者が管理責任を負うべき。との考えからです。市が判断すべきことですが、しっかりと検証して頂きたいと思います。

【住民の生活環境保持のため、引き続き適切なチェックと指導を！】

昨年来、事業者の理解・協力が進んでいます。今年に入り、防音壁の設置や店舗と倉庫を結ぶ橋(通路)の補修が行われ、「騒音被害」は軽減しています。また、揚げ油の「悪臭」対策として、フィルターの交換時期を早めました。市は、住民に「言われてからやる」のではなく、定期的に実態を把握し、騒音・悪臭等のチェックと事業者への継続的指導を行って頂きたい。(いながき記)

編集後記

新庁舎建設。鉄骨造(S造)3階建て、面積7505.8㎡、建設費3億3600万円。

1968年(昭和43年)に建設された現庁舎。

約50年を経て、建物・設備は老朽化し狭隘。庁舎や窓口が分散し、使いづらく、東日本大震災でも被害を受け、耐震性に大きな不安があります。職員や来庁する市民の命と安全を守ることは難しく、薄暗い部屋の机で職員が昼食をとる姿は、なんとも痛ましく健全な職場環境とは言えません。

お金が掛かる新庁舎建設。建物に36億3600万円、その他の事業費(設計業務や什器・備品・引越等)5億3千万円。きよみ野の土地(15000㎡)購入には20億5000万円も。現庁舎解体は、1億5000万円。合計63億円を超えます。

しかし、職員が新たな環境で、意欲的に仕事をし、市民とともにまちづくりを進めて行けば、住んで良かった、これからも住み続けたい「吉川」が出来ると思います。また、開かれた庁舎を市民が使いこなせば、ムダな投資ではありません。

議会の方も、立派な議場で立派な議論が出来ればよいのです。少し心配です。いながき